

学力調査等の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査の結果では、全国の平均正答率に比べ国語は-7.9%、数学では-22.9%、理科では-9.5%と、いずれの教科も平均正答率に達していない。また、どの教科も「好き」と答えた生徒は全国平均を上回るが、「わかるか」との問いには全国平均を下回った。 ・国語、数学においては、思考・判断・表現を観点とした問いの正答率が低く、理科についてはその逆となっている。 ・数学においては無回答率が18.8%と、全国平均の9.4%を大きく上回っている。 ・授業時間外での学習時間について、2時間以上と答えた生徒がいない。 	

見えてきた課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・全体として、知識の活用を苦手とする傾向があるため、得た知識を活用する場面を意図的に設定する。 ・無回答率の高さについては正解にたどり着くことだけでなく、その過程の重要性を示すなど、粘り強く取り組む気持ちを喚起する。 ・家庭学習の時間が少ないことについて、学び方そのものについても指導を行う。 	

授業をデザインする8つの取組について	
認め合う・学び合う集団の形成	3~4人のグループを編成し、協働する時間を積極的に取り入れ、生徒が互いに認め合い、粘り強く学習に向かえるよう授業を組み立てていく。また、学年・校種を越えた学び合いを行っていく。
発問の工夫	生徒の思考に働きかけるような、知的好奇心をかき立て生徒同士で協働しながら追究することができる発問を工夫する。
ICT機器の活用	Chromebookの様々な機能を授業に取り入れ、物事を多角的に捉え考える力の育成につなげる。また、定期的なnavimaの活用による基礎的・基本的な学習内容の習得や、プロジェクトの活用による教材の共有や協働学習の推進を図る。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書の取組を通して読書への関心を高める。 ○様々な種類の文章を読み、視野を広げる。また、自分の考えをもち、表現する力を育成する。 ○小中連携に力を入れ、既習漢字の習得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでに習得すべき知識言語が十分に身に付いているといえない。読解や解釈の方向性に支障をきたさないよう、基本的な言語知識の習得に力を入れる。 ○短文の解釈や読み取りから徐々に文章を長く複雑にしていくことで、読解力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語彙力を向上させ、読解や表現につながるよう努める。 ○学習に対して見通しをもたせ、何を考えどのように表現すべきかを意識しながら取り組めるように工夫する。 ○短文の記述を取り入れ記述力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に書く力の伸長に課題がある。表現する機会を積極的に取り入れ、書く力の向上に努める。 ○見通しをもって授業や単元の学習に向かうことで、学ぶ意欲や主体的な学習につながるよう工夫する。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ○地理・歴史・公民各分野とも、基礎的・基本的な学習内容の習得を図るとともに、分かる授業をより増やしていく。 ○教科書、地図帳、資料集はもとより、掛図、写真、ICTを多用し知る喜び分かる喜びを感じられる授業に力を入れる。 ○適正な学習評価により近付ける。 ○小中連携により、系統的な授業の展開を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎回の授業の冒頭でのミニテスト及び単元ごとのテスト実施による振り返りを行い、基礎・基本の定着を図る。 ○個別学習→グループワーク→振り返りをテーマに基き、毎単元行う。 ○特に個別学習においてICT機器を活用しているが、今後はグループ学習においても活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎回の授業の冒頭でのミニテスト及び単元ごとのテスト実施による振り返りを行い、基礎・基本の定着を図る。 ○個別学習→グループワーク→振り返りをテーマに基き、毎単元行う。 ○特に個別学習においてICT機器を活用しているが、今後はグループ学習においても活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎回の授業の冒頭でのミニテスト及び単元ごとのテスト実施による振り返りを行い、基礎・基本の定着を図る。 ○個別学習→グループワーク→振り返りをテーマに基き、毎単元行う。 ○特に個別学習においてICT機器を活用しているが、今後はグループ学習においても活用する。
数学科	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の学習状況を把握し、基礎的な学習内容の習得を目指す。 ○単元の学習内容の見通しをもたせ、生徒が学習のつながりを理解できるよう指導を進める。 ○小中連携授業を通して、学習の系統性を意識した授業展開をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校までの基礎的な知識・技能の習得が不十分であるため、授業内や家庭学習等で基本的な計算練習を行う。 ○毎時間めあてを提示し、前回までの既習事項がどう活用できるかという視点で発問を行い、単元を見通すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度までの内容を授業内や家庭学習等でワークを活用することで振り返る。 ○毎時間めあてを提示し、前回までの既習事項がどう活用できるかという視点で発問を行い、単元の見通しをもたせさせる。特に、比例と1次関数、図形の証明など、既習事項との関連を多く図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度までの内容を授業内や家庭学習等でワークを活用することで振り返る。 ○毎時間めあてを提示し、前回までの既習事項がどう活用できるかという視点で発問を行い、単元を見通しをもたせさせる。更に単元横断的な問題に取り組むことで、義務教育9年間の学びをつなげる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○授業開始時に前時の内容を確認する。なるべく1人1つの教材を用意することで、繰り返し学習による基礎・基本的な知識の定着を図る。 ○生徒自身が身近なもので体験できる実験・観察などの機会を多く設け、実験計画や話し合い活動などの深い学びにつなげていく。 ○小学校との系統性を考えながら、9年間を見据えた小中連携による授業展開を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○なるべく1人1つの教材を用意することで、個々の学習を充実させる。 ○身の回りの生活に基づいた事象を取り入れた実験で安心感をもち、更に学ぶ意欲を向上させる。 ○小学校の既習事項を中心に、単元ごとに復習を行い、小テストやクロムブックを活用した調べ学習の発表などで知識の習得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校や中1の既習事項を単元ごとに復習を取り入れ、小テストやクロムブックを活用した調べ学習や考えの発表などで知識の習得を図る。 ○身近な事象を取り入れた実験や、なるべく1人1つの教材を用意することで、学習の機会を増やしていく。 ○小学校とのつながりを大切にした授業をすることで、繰り返し学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校や中学校での既習事項を109問テストにして繰り返し行うことや、ICT機器を活用した実験や考えの発表などで知識の習得を図る。 ○身近な事象を取り入れた実験や、なるべく1人1つの教材を用意することで、更に学ぶ意欲をもたせさせる。 ○小学校とのつながりを大切にした授業をすることで、繰り返し学習を行う。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の音読や作文の暗唱を通して、基礎・基本の習得を図る。 ○応用で、自分の言いたいこと英語で話したり書いたりできるようにするために、十分な反復練習を授業内で行う。 ○単語テストに重点を置き、語彙力の向上を図る。 ○問題演習の時は、レベル別に対応できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本文の口頭練習をパワーポイントを用いたOral Interactionを行う。その中で本文を理解・反復練習を行い、その後のオリジナル作文の作成・暗記・発表につなげる。 ○音読を指導やグループワークを中心とした教え合いの時間を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本文の口頭練習をパワーポイントを用いたOral Interactionを行う。その中で本文を理解・反復練習を行い、その後のオリジナル作文の作成・暗記・発表につなげる。また、短い文章を多く読むことで文章読解力を育成する。 ○音読を指導やグループワークを中心とした教え合いの時間を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音速や長文読解を中心とした授業をパワーポイントを使って行う。 ○グループワークを行い、習熟度を補い合うよう授業展開を工夫する。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
音楽科	<p>○表現力の向上をめざし、歌唱、器楽演奏に加えて、鑑賞についての言語活動を積極的に取り入れる。練習過程での言語による伝える力の充実を図る。</p> <p>○小・中連携に力を入れ9年間を見通した系統的な授業を展開する。</p>	<p>○小グループによる協働学習を取り入れ、相互に関わり合いながら音楽性を豊かに育てる。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度を育むため、授業の開始時に学習の目当てを明確化する。また、授業後の振り返りカードへの記述によって成果と課題を自覚する機会を作る。また、題材によっては、ICTを活用しながら、調べ学習や意見交流などの効率化や充実を図る。</p>	<p>○小グループによる協働学習を取り入れ、相互に関わり合いながら音楽性を豊かに育てる。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度を育むため、授業の開始時に学習の目当てを明確化する。また、授業後の振り返りカードへの記述によって成果と課題を自覚する機会を作る。また、題材によっては、ICTを活用しながら、調べ学習や意見交流などの効率化や充実を図る。</p>	<p>○小グループによる協働学習を取り入れ、相互に関わり合いながら音楽性を豊かに育てる。</p> <p>○主体的に学習に取り組む態度を育むため、授業の開始時に学習の目当てを明確化する。また、授業後の振り返りカードへの記述によって成果と課題を自覚する機会を作る。また、題材によっては、ICTを活用しながら、調べ学習や意見交流などの効率化や充実を図る。</p>
美術科	<p>○鉛筆デッサンを通して、物の見方を学ぶ。</p> <p>○制作準備や片付けを含め、学習材と向き合わせることで、その特徴を捉えられるようにする。</p> <p>○小学校と同じ図工室で活動することで、9年間の学習環境の共有を図る。</p>	<p>○デッサンや着色を通し、共通した視点を身に付けさせる。</p> <p>○身近な課題を設定しより生徒の興味・関心の想起を図る。</p> <p>○小学校での活動を振り返り、既習事項との結び付きを意識させ、基礎的・基本的な技能の定着を図る。</p> <p>○「描く」「作る」の前提として、美術とは「見ること」「考えること」であるという姿勢を身に付けさせる。</p>	<p>○デッサンや着色を通し、共通した視点を身に付けさせる。</p> <p>○生徒の発想を大切にし、より興味・関心の想起を図る。</p> <p>○既習事項との結びつきを意識させ、基礎的・基本的な技能の習得を図る。</p> <p>○プロの作品などに触れ、イメージの幅を広げる。</p>	<p>○デッサンや着色を通し、共通した視点を身に付けさせる。</p> <p>○生徒の発想を大切にし、より興味・関心の想起を図る。</p> <p>○既習事項との結びつきを意識させ、基礎的・基本的な技能の習得を図る。</p> <p>○グループで同じテーマを考え、話し合い、発想のヒントを得る習慣を養う。</p>
保健体育科	<p>○各種の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けることができるように、個に応じた指導をしていく。</p> <p>○各領域特有の特性や魅力に応じた課題を発見し、仲間とともに解決方法を考える学習を展開する。</p> <p>○体を動かす楽しさや喜びを味わおうとする自主的な態度を育成するために、個に応じた目標設定をさせていく。</p>	<p>○ICT機器を使用し、自らの動きを可視化させ、より体の使い方についての理解を深める機会を設ける。</p> <p>○学習カードで単元始・中・終に省察することを定着させる。また形成的な評価を行い、指導につなげる。</p> <p>○体育委員を中心に安全管理や授業規律を意識する力を育む。</p> <p>○小中連携で授業を行うことを推進する。</p>	<p>○ICT機器を使用し、自らの動きを可視化させ、より体の使い方についての理解を深める機会を設ける。</p> <p>○学習カードで単元始・中・終に省察することを定着させる。また形成的な評価を行い、指導につなげる。</p> <p>○体育委員を中心に安全管理や授業規律を意識する力を育む。</p> <p>○小中連携で授業を行うことを推進する。</p>	<p>○ICT機器を使用し、自らの動きを可視化させ、より体の使い方についての理解を深める機会を設ける。</p> <p>○学習カードで単元始・中・終に省察することを定着させる。また形成的な評価を行い、指導につなげる。</p> <p>○生徒が主体的に、安全管理や授業規律を呼びかけるとともに下級生の見本となる意識を育む。</p> <p>○小中連携で授業を行うことを推進する。</p>
技術・家庭科	<p>○基礎的な学習内容が身に付くようにするために、スモールステップで学習ができていくか確認する。(小テストやレポートなど)</p> <p>○指導の過程で生徒が主体的に学べるように指導の仕方や教材を工夫する。</p> <p>○実習の場面等を活用し、協働的な学習場面を作る。</p> <p>○小中連携に力を入れコンピュータリテラシーについて、9年間を見通し系統立てた授業を展開する。</p>	<p>○Googleフォームによる振り返りや小テストを行い、基礎的な内容の定着を図るとともに、形成的な評価を行い、指導につなげる。</p> <p>○製作に必要な基礎的な作業や知識を理解させ、製作品の選択や手順について生徒自身で決定する場面を設定する。</p> <p>○キーボードを使用するの文字入力を行う機会をつくる。</p>	<p>○Googleフォームによる振り返りや小テストを行い、基礎的な内容の定着を図るとともに、形成的な評価を行い、指導につなげる。</p> <p>○必要な基礎的な知識を伝えただけで、計画や手立ての工夫などについて、生徒自身で決定する場面を設定する。</p> <p>○キーボードを使用するの文字入力力の習得を図る。検索の方法と情報の信ぴょう性を重視した指導を行う。</p>	<p>○Googleフォームによる振り返りや小テストを行い、基礎的な内容の定着を図るとともに、形成的な評価を行い、指導につなげる。</p> <p>○必要な基礎的な知識や考え方を伝えただけで、目的を達成するためのプログラムや布おもちゃを、生徒自身で考える場面を設定する。</p> <p>○共有フォルダを活動した課題提出などに取り組み、クラウドの利活用について体験する機会を設定する。</p>
総合的な学習の時間	<p>○9年間を見通して教科等横断的・総合的内容に配慮した体験活動や探究的な学習を充実させ、自ら課題を見付け、解決する能力やものの考え方及び表現する能力を養う。</p> <p>○小中連携し、9年間を見通した計画で環境教育を推進する。</p>	<p>○9年間を見通して、年間テーマを決定し、グループごとに興味・関心のある小テーマを決めて協働・探究学習を行うことで「主体的、対話的で深い学び」を推進する。</p> <p>○地域とつながることを軸に据え、年度末に実施予定の職場訪問、来年度の職場体験、再来年度の修学旅行等充実のための基盤となる力を育む。</p>	<p>○調べ学習を通して、情報の活用やプレゼンテーションの工夫について考える能力を育てる。</p> <p>○福祉学習や職業教育など、教科等の横断的な学習を含め、体験的な活動を取り入れながら、多様な経験と考えの深化を図る。</p> <p>○地域とつながることを軸に据え、地域の自然について考える学習を推進する。</p>	<p>○ゆくのき学園のリーダーとしての力が、将来の自分に役立つために、SDGsに関する取組やキャリア教育に関する取組など、協働・探究活動による問題解決能力を育む学習を推進する。</p> <p>○9年間で得られたゆくのき学園の生活をもとに得られた知識を、将来の自分や地域の環境に配慮した力を育てる。</p>
特別の教科 道徳	<p>○人間尊重の精神のもと、教師と生徒及び生徒相互の温かい人間関係を深め、一人一人が人間性豊かな生き方を実践できるようにするとともに、生命尊重や人間尊重の精神を育成し、内面に根ざした道徳的実践意欲の寛容を図る。</p> <p>○小中連携し、9年間を見通した計画で道徳教育を推進する。</p>	<p>○生徒が興味をもつ題材(教科書の内容や社会の出来事)を選定し、提示する方法を工夫する。また、発問を工夫することで、考える力を養う。</p> <p>○生徒間での話し合いができるよう、話し合いや議論する機会をもつ。互いの意見を尊重することを念頭に置いた指導をする。</p>	<p>○教科書や社会の出来事、身近な生活の中にもみられる課題など様々な教材(文章、映像、新聞など)を通して、道徳的価値の理解に迫る。</p> <p>○ペアやグループでの話し合い活動など、協働学習の機会を効果的に取り入れ、多様な考えに出会い、認め合う気持ちを育てる。また自らの行動を振り返る自己評価の充実も図る。</p>	<p>○生徒の実態を鑑み、思いやりなどの自己形成に役立つ題材選びや、ICT機器の活用など一人一人の個性がより活かされる表現方法の工夫により、道徳的実践意欲の寛容を図る。</p> <p>○9年間で得られた力を活用し、他者の意見も踏まえた上で、多面的な考えを尊重できる道徳教育の推進を行う。</p>

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
特別活動	<p>○SNS川柳を毎月変更し、掲示することでルールを浸透させ、よりよい生活を送れるようにする。</p> <p>○小中合同でできる活動を企画・実施をしていく。</p> <p>○明るい学校生活を送れるようにあいさつに重点を置く。</p> <p>○小中連携し、9年間を見通した計画で展開する。</p>	<p>○学級活動等において、適切な合意形成が行えるよう、対話的な活動場面の充実を図るとともに、行事ごとの実行委員を中心とした自主的な活動を尊重する。</p> <p>○生徒それぞれが係をもち、よりよい学級生活が送れるよう意欲的に行動できるようにする。</p> <p>○他学年との協力や連携を通し、これまでの自分の成長を振り返ったり、これからの自分を思い描く場面を場面を作る。</p>	<p>○自主・自立の精神を育てることを目標に、学級活動や行事の場面では、生徒自身が考え、行動する機会を意識的に設定する。</p> <p>○集団としての向上を目指し、自らあいさつを行うことを意識しての生活と定期的な班長会、学級会を通じて振り返りを行う。</p> <p>○小中連携の機会を大事にし、学年として集団を支えたり、リーダーシップやフォロワーシップを発揮したりする役割の自覚を育てる。</p>	<p>○学級生活や家庭との連携に基づき、他人を思いやる精神を育てることで、総合的に物事を判断できる力の育成を進める。</p> <p>○ゆくのき学園のリーダーとしてどのように行動するのか、自ら考え行動できるよう、自主自立の精神を養う。</p> <p>○学習発表会で9年間の小中連携を振り返るなど、小中連携の活動が今後の社会に役立つなど、自己の未来を創造する力を育む。</p>